

トマト

(1)耕種的防除法等

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
青 枯 病	植付前 生育中	○ ナス科作物の連作をしない。 ○ 排水を良くする。 ○ 抵抗性台木を用いて接木栽培を行う。 ○ 敷わらをする。(地温を下げる) ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。
萎 凋 病	植付前 生育中 収穫後	○ 健全な種子を選ぶ。 ○ 連作をしない。 ○ 耐病性品種を栽培する。 ○ 萎凋病菌には品種によって病原性が異なるレース(1、2、3)があるので、品種を選択する際に注意する。 ○ 抵抗性台木を用いて接木栽培を行う。 ○ 促成・半促成栽培では十分に地温を確保して定植する。 ○ 土壌の塩類集積が進むと発病が多くなる。 ○ 発病株は早期に抜き取り、適切に処分する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。
疫 病	植付前 生育中	○ 健全苗を植え付ける。 ○ 支柱や温床の枠などを消毒して使用する。 ○ ばれいしょ畑の近くではトマトを栽培しない。 ○ 敷きわらやマルチを行って、土からの病原菌のはね上がりを防ぐ。 ○ ハウスの換気や排水を図り、多湿を避ける。 ○ 罹病葉、病果は直ちに摘み取って焼却する。 ○ 窒素肥料の過用や偏用を避ける。 ○ ハウスのサイド近くなど温度が下がりやすく多湿になりやすいところから発生しやすいので注意して管理・防除する。
かいよう病	植付前 生育中 収穫後	○ 発病畑で使用した資材を再利用する場合は消毒する。 ○ 発病株は直ちに抜き取り、汚染資材を撤去する。 ○ 発病畑では、全株を集めて適切に処分する。
菌 核 病	植付前 生育中	○ 床土は無病のものを使用する。 ○ 発病畑では、上層30cmの土壌と下層30cmの土壌の天地返しを行うのも良い。 ○ 床面のビニールマルチを行う。 ○ 発病前から予防剤を散布する。 ○ 発病株は抜き取って適切に処分する。 ○ 低温多湿で発生しやすいので注意する。
苗立枯病	植付前	○ 古い培土を使用しない。
灰色かび病	植付前 生育中	○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ 換気を図り、低温多湿にならないように注意する。 ○ 受粉が終わった花卉は除去する。 ○ マルハナバチ訪花や振動受粉などにより着果させるとホルモン処理するよりも発生が少ない。
葉かび病	植付前 生育中	○ 前作で発病したところは資材を消毒する。 ○ ファン等を利用して通風をよくし、ハウス内を高温多湿にしない。 ○ 抵抗性品種もあるので適宜活用する。 ○ 肥料切れや多肥で発生するので適正な肥培管理を行う。
半身萎凋病	植付前	○ 抵抗性品種及び台木を利用する。
斑 点 病	植付前 生育中	○ 排水をよくする。 ○ 密植を避ける。 ○ 換気を図り、多湿にしない。

トマト

病 害 虫 名	防 除 適 期	防 除 方 法
輪 紋 病	植付前 生育中 収穫後	○ ハウス栽培では、紫外線除去フィルムを用いる。 ○ 肥切れ状態にならないように注意する。 ○ 収穫後、被害株を焼却する。
モザイク病	植付前 生育中 生育中	○ TMV(タバコモザイクウイルス) ・ 種子は無病株から採取する。 ・ 作業前に石鹼で十分手を洗う。 ・ 抵抗性品種を栽培する。 ・ 発病株は早期に抜き取り焼却する。 ○ CMV(キュウリモザイクウイルス) ・ シルバーStraubマルチを使用し、有翅アブラムシの飛来を防止する。 ・ 発病株は早期に抜き取り焼却する。 ・ ほ場周辺の雑草を除去する。 ○ 病原ウイルスは、接触伝染するTMVと、主としてアブラムシにより虫媒伝染をするCMVの2種類である。
黄化えそ病		○ TSWV (トマト黄化えそウイルス) ・ アザミウマ類により媒介される。 ・ 発病株は除去する。 ・ ほ場周辺の雑草を除去し、防虫ネットを設置する。
黄化葉巻病		○ TYLCV (トマト黄化葉巻ウイルス) ・ シルバーリーフコナジラミ等により媒介される。 ・ 汁液伝染はしない。 ・ 0.4mm目合いの防虫ネットを設置する。